

子に「先生、カレーライス臭いぞ」と言われた。そんなことがおかしく思い出された。6:00<海鷹>、<ソレイル>出港。<海鷹>は私達と同じく室津へ。<ソレイル>は関門海峡から瀬戸内海へ。7:00我々も出港する。大島と地の島(じのしま)との間を通り、関門海峡のはるか沖合いを通過。蓋井島(ふたおいじま)と本土との間を通り右に進路を変更すれば室津フィッシャリーナである。地元のヨットマン二人が着岸を手伝ってくれる。ゲストバース完備、電気、水道完備の居心地の良いハーバーだ。夕方、<海鷹>大高氏と川棚温泉へ。笹岡氏の<招福>も入港中である。

6月2日(木) 晴れ

室津フィッシャリーナ→萩市菊の浜港

4:30起床。5:30出港。<海鷹>、<招福>も同行する。時折、帆走するもののほとんど機帆走である。目的地は萩港南隣の菊の浜港。こちらの方が入港し易く町にも近いという。<海鷹>らは本土と角島との間の海士ヶ瀬戸を通るが、私達は角島の外側を迂回して航行。この水路は非常に狭く、ほんのわずか外れるだけで水深は一気に浅くなってしまふからだ。私は君子ではないがこんな所には近づきたくはないのだ。14:30入港し、やり付けで舫う。続いて<若水>も入港。「舫6月号、地球の海の歩き方」に<マイウェイ>と一緒に掲載されていたヨットである。それにしてもデカイ。<ラグーン>の50フィートくらいか。夜、大高氏を招き、北海道風のすき焼きでいっぱい飲みだ。

6月3日(金) 曇り 萩市菊の浜港

目が覚めたら皆出港していて、残っているのは我々だけだ。まあいい、今日は萩市の見物だ。萩城跡、厚狭毛利家長屋を見学。海岸すぐそばに建つ城である。町の見学のついでに先日こわれた私のメガネの修理。その間、武家屋敷を見て蕎麦屋で昼食だ。久しぶりの日本蕎麦である。いい味だ。そのあと、吉田松陰関係の見学へ。「松下村塾」の小さいのに驚いてしまう。



松下村塾



武家屋敷

6月4日(土) 曇り時々晴れ

菊の浜港→島根県浜田港

西よりの風、はじめ風力2、後5。順風である。艇速は6~6.5ノット。メインを1ポンから2ポンへリーフする。次第に波も大きくなる。浜田港に近づく。防波堤からの返し波が大きくそしてチョッピーになってきた。出港する漁船も舳先を高く上げピッチングしている。14:30港口をかわす。内港入り口には大きな白い橋がかかっている。海面からの高さは18メートルというが、下から見上げるとマストの先が橋に触れそう。勿論何事もなく無事通過し港奥へ着岸。

6月5日(日) 曇り時々晴れ

浜田港→温泉津(ゆのつ)港

温泉津までは距離は短い、どの航海記にも「とてもいい港だ、いい町だ」と書かれているので素通りす

るわけにはいかないのだ。今朝はご飯を炊きゆっくり食事をすませて出港である。11:00温泉津到着。これで「ゆのつ」と読むのだから日本語は難しい。木造三階建ての古一い温泉(薬師湯)につかる。入浴料は350円だが、洗髪しなければ300円。350円払った人と、300円しか払わなかった人は洗い桶で区別されているのでインチキできないのだ。なにはともあれ、風呂、風呂。少々金気臭いがいい湯だ。

6月6日(月) 曇り 温泉津港→恵曇(えとも)港

今日の目的地の読み方も難しい。「恵」に「曇」と書いて「えとも」と読むのだという。宍道湖のある島根半島の中央に位置している町だ。14:30恵曇入港。港奥に槍づけで舫ったが漁協にクレームをつけられ外港へシフト。広々としているが水深が10メートル以上もありアンカーロープをかなり繰り出さなければならない。槍づけの際は常にアンカーモニターも使っているがいろいろやってみた結果、モニターにはホームセンターなどで売っている漬物用の重石が便利だ。おまけに安い。10キロと6キロを2個使いシャクルにぶら下げアンカーロープ伝いに海中に入れてやるのだ。勿論モニターには引き上げるためのロープを付けてある。

6月7日(火) 晴れ時々曇り

恵曇港→浦郷港(隠岐諸島、西ノ島)

6:00出港する。港出口までいい風があったがあとはさっぱりだ。そのかわり波もない。湖状態での航海もいいが機走はちょっとね。知夫里島と中ノ島の間を通過して北西に6マイル進んだ奥が浦郷の港である。昨日のこともあるので漁協に係留場所の指示をあおぎ無事着岸、と思ったが近くを航行する船の引き波がすごいのだ。到着後ギアオイルの交換。最近乳化するのが早く、20時間ごとに交換している。函館に帰ったら本格的に修理をしなければならぬだろう。夕方、港横の小高い丘にあるホテル「国賀荘」で入浴。かけ流しの本物の温泉である。男湯も女湯も客は私たちのみ。貸切状態なのだ。

6月8日(水) 晴れ

浦郷港→菱浦港(隠岐諸島、中ノ島)

引き波が強く居心地が良くないので早朝菱浦へ移動する。北欧のフィヨルド(?)のような穏やかな水路を進むこと1時間、静かな菱浦港に到着。観光船の雰囲気だ。到着後、遅い朝食。観光案内所で情報を仕入れ、徒歩で隠岐神社へ。この島は後鳥羽上皇が流された島だったんだね。ようやく歴史と現場がかみ合ってきた。資料館も見学したがシーズンオフなのか見学者は私達だけだ。帰りもまた歩く。結構な距離だが二人でおしゃべりをしながら歩くとそれほど苦にならない。観光案内所横の売店をぶらつく。イカはどうかと勧められたが、函館から来たという、「それは悪かった、申し訳ない」と店中大笑いになってしまった。やはり函館はイカが有名なようだ。それでもアジとイカを買って今夜のおかず。

